「東山サイケデリック」 Photograph by Hiroshi Mori　晴れやかな新春をお迎えください！

B2 ニュースレター

2016/12/30

～2 月のオススメ イベント～
19 日(日) 世界湿地の日イベント 2017

H27 道内観光入込客数過去最高を更新

平成 28 年 8 月の北海道経済部観光局の調べによると、平成 27 年度の道内観光客入込数は 5,477 万人となったことがわかった。景気の緩やかな回復により観光需要が堅調に推移。これに加え、5 月のゴールデンウィークと 9 月のシルバーウィークが伴に 5 連休となったほか、記録的な大雨や暴風雪に見舞われた前年と比較し天候にも恵まれた。また、3 月末に道東白糠インターチェンジの延伸や国内外の新規航空路線就航により交通アクセスが向上したことが大きな要因となり、前年度の 5,377 万人を超え,過去最高を更新することとなった。道内客・道外客・外国人客別にみると道内客は 4,693 万人、道外客は 577 万人、外国人が 208 万人となり、構成比では、道内客が 85.7%、道外客が 10.5%、外国人が 3.8%となっている。また、日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は 3,700 万人、宿泊客は 1,778 万人となり、構成比では、日帰り客が 67.5%、宿泊客が 32.5%となった。H27 北海道経済部観光局報告書より(本間)

＜平成27年度　観光入込客数（実人数）＞

区	分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	構成比
第1四半期（4～6月）	道内客	1，103万人	243万人	1，346万人	＋0．4%	89．0%
	道外客	1万人	128万人	129万人	＋0．8%	8．5%
	外国人	－	38万人	38万人	＋51．1%	2．5%
	合計	1，104万人	409万人	1，513万人	＋1．2%	100．0%
第2四半期（7～9月）	道内客	1，546万人	283万人	1，829万人	＋1．2%	87．5%
	道外客	8万人	201万人	209万人	＋1．5%	10．0%
	外国人	－	52万人	52万人	＋30．2%	2．5%
	合計	1，554万人	536万人	2，090万人	＋1．8%	100．0%
第3四半期（10～12月）	道内客	468万人	244万人	712万人	＋0．6%	81．1%
	道外客	2万人	120万人	122万人	＋1．7%	13．9%
	外国人	－	44万人	44万人	＋33．5%	5．0%
	合計	470万人	408万人	878万人	＋1．9%	100．0%
第4四半期（1～3月）	道内客	570万人	236万人	806万人	＋1．1%	80．9%
	道外客	2万人	115万人	117万人	＋2．6%	11．7%
	外国人	－	73万人	73万人	＋31．9%	7．3%
	合計	572万人	425万人	996万人	＋3．0%	100．0%
合計	道内客	3，687万人	1，006万人	4，693万人	＋0．8%	85．7%
	道外客	13万人	564万人	577万人	＋1．4%	10．5%
	外国人	－	208万人	208万人	＋35．0%	3．8%
	合計	3，700万人	1，778万人	5，477万人	＋1．9%	100．0%

菅野真司の図書統括

「八月の六日間」　北村 薫 著

元バイク雑誌編集長で株)ブナの里振興公社に勤務する菅野真司氏がおすすめする書籍紹介コーナー。書籍を通じ北海道ライフを考える。　ページ 2

黒松内余適　文：黒松内山道の会　北村 英芳

-ここ掘れ・ワン！ワン！-

温泉、石油、金鉱。黒松内にはお宝が眠っていたのか？財をなしたものはいたのか？北村氏が黒松内の地下に眠るお宝採掘の歴史を探る。　ページ 3

ブナ里少年期紹介　新川 幸夫さん　ページ 4

黒松内に移住して今年で 22 年目となった新川さんに幼少期の思い出話や町についてお話を伺った。ブナ林再生プロジェクト会長をはじめ、フットパスボランティア、近隣の山岳会での活動など、78 歳を迎えた今も、積極的に活動を続けている。

EVENT　February

2 月 19 日(日)「世界湿地の日イベント 2017」

毎年 2 月 2 日の「世界湿地の日」を記念し、2 月 19 日に黒松内では 4 回目となる世界湿地の日記念イベントを開催。今回は、スノーシューを履いて添別ブナ林を散策します。また、スノーシューハイクの後は、ふぁーむいん冨田にて特製豚汁ランチをいただきながら参加者との交流を深めます。歌才湿原の現状についてもレポートする予定。

参加費は一人@1,000 円　※和かんじきのレンタル有り

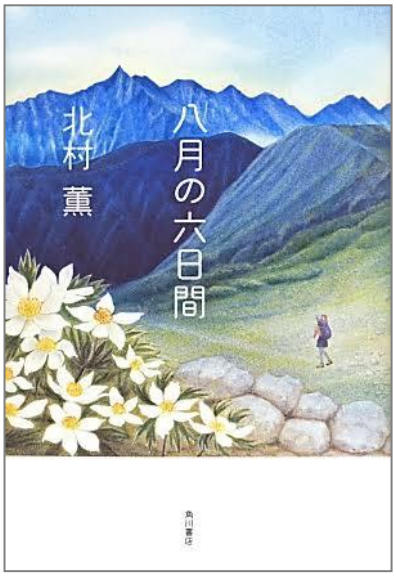
菅野真司の図書統括　「八月の六日間」 北村薫 著　角川書店 1,620 円

ワークとライフのグラデーション

「ワークライフバランス」とかいうへんてこりんな横文字が一般化して久しい。多くの場合、仕事が忙しすぎて「ワーク」が「ライフ」を圧迫するという問題を、社会構造の歪みを糾弾する立ち位置から叫ばれている。何年か前にこの言葉を最初に耳にした時、「ワークって、ライフの一部じゃないのか？」と感じた。頭の中で「ライフ」を「人生」と訳していたから当然だ。仕事は人生の中で極めて重要な要素だし、仕事抜きでその人の人生を語ることはできないはずだ、と。

当時の自分はバイク雑誌の編集の仕事をしていて、仕事は当然バイク三昧。締め切りやら何やらで三ヶ月ほど休みがなく、ひさしぶりに休んでも、その休日に自分のバイクに乗るというような生活。今考えても、気が狂っていたのではないかと思う。でも、それほどにのめり込める何かがあった自分は、幸せだった。今ではそう感じている。でも好きなことを仕事にするのは、むずかしい。20 年ほど、趣味のバイクを仕事にしている間にはさまざまな葛藤があった。これほどにのめり込んだバイクを嫌いになりかけたこともあった。なぜ自分はバイクに乗るのだろうと、ちょっと哲学的に考えを巡らせたりもした。好きなバイクを仕事にさえしていなければ、もっと素直にバイクと向き合えたはずなのにと感じたことは、一度や二度ではなかった。だからといって、仕事を辞めたいとか変えたいと思ったことは一度もなかったのだけど。

「ワークライフバランスが云々」と口にする人たちは、仕事とプライベートの間にハッキリとした境界線を引いているのだろう。そんなの、もうやめにしたらどうか。仕事とプライベートが、なだらかに切り替わっていくような、そんな暮らし方ができれば、それは最高のバランスに違いない。（菅野 真司）



「八月の六日間」本の内容・・・

40 歳目前、文芸誌の副編集長をしている“わたし”は、ひたむきに仕事をしてきたが、生来の負けず嫌いと不器用さゆえ、心を擦り減らすことも多い。一緒に住んでいた男とは 3 年前に別れた。そんな人生の不調が重なったときに、わたしの心を開いてくれるもの、山歩きと出逢った。四季折々の山の美しさ、怖ろしさ。様々な人との一期一会。いくつもの偶然の巡り合いを経て、心は次第にほどけていく。だが少しずつ、けれど確実に自分を取り巻く環境が変化していくなかで、わたしは思いもよらない報せを耳にして…。
生きづらい世の中を生きる全ての人に贈る“働く山女子”小説！（「ＢＯＯＫ」データベースより）

～山に登れば気分爽快～　その六「白井川ブナ林」秘境まだありました！　文・写真　ノースランド　辻野 健治

こんにちは～　ブナの森登山ガイドの辻野です。

今年の冬は、駆け足でやってきました・・？いや、これが普通のようです。寒くて外にでかけるのが面倒くさい冬ですが、皆さん、頑張って野外を歩いていますか。

黒松内周辺の秘境話も、だんだんとネタがなくなり原稿を書くのが辛くなってきた～などと、あたふたしておりますが、まだありました～秘境な話。そう、黒松内の秘境のひとつ「白井川ブナ林」です。白井川ブナ林と言えば、私が考える黒松内三大ブナ林の一つで、朱太川の一次支流白井川源流部周辺は、日本のブナ北進の最前線なのです！北限のブナの最前線では、大ざっぱに１年で 20ｃｍ程度ですが、ブナが北進を続けています。そして、私はこの話を聞くと、なぜか感動してしまいます。では、何故ここが秘境かというと、このブナ林に入林するには、許可申請手続きという「行政の壁」、散策路が未整備で歩きにくく、藪こぎをする箇所もあることから「ブッシュ越えの壁」、標識等の設置がないため、道迷いなどの危険もあることから「位置特定困難という壁」など、越えなければならない三つの壁があり、個人的には、白井川ブナ林は立派な秘境だと考えています。さて、そんな秘境・白井川ブナ林の観察会(ブナセンター主催)が今年の夏に開催され、私も参加することができました。

樹齢１００年を越える巨木を眺め、アップダウンの多い散策路を子供達と一緒に散策、約２時間の周遊コースを周りましたが、散策路を歩くことで、私の山感がピーンと来きたのです。ここって意外と○○○、、、秘境なので位置が解るコメントはできるだけ差し控えますが、思ったより○○○。雪の積もった 11 月にもチョコット行ってきましたが、想定したとおり短時間で到着することができました！

★来年、1 月 17 日にノースランドのツアーで白井川ブナ林に行きます、ご興味のある方はご連絡を！
ノースランド辻野 (携帯)090-7652-4508

【くろまつない余滴】 第３話

― ここ掘れ・ワン！ワン！―

文：黒松内山道の会　北村 英芳

白 炭 川

出無精な私でも、雪が降りだすと近場の温泉に繰り出します。露天風呂に浸かりながら眺める雪は、貧乏人の私にとって黄金に勝るお宝です。今回は、黒松内の地下に眠るお宝を拾ってきました。

最初のお宝は温泉です。明治 37 年に刊行された「北鐵旅行案内」に、函樽鉄道黒松内駅が載っており黒松内村の紹介があります。その中に『本驛を距る約２里にして湯の澤鑛泉（※寿都町旧湯別温泉）に至るべし、此間車馬の便あり泉質は硫化水素冷泉なり、また黒松内川上流の停車場より約１里（※約４キロ）の所に湧出するの説あるも、未だ着手せる人を聞かず、編者もまた之を探査せさりしも思うに本驛の発達すると共に（略）』と、古くから黒松内にも温泉のあったことが書かれています。黒松内川の４キロ上流というと、現在の黒松内岳登山口に通じる道路の途中にある大栄鉱山跡附近になります。又、大栄鉱山について書かれた本にも『近くに冷泉（※泉温２５度以上が温泉）あり、鉱夫たちは沸かして入浴・・・』とあり、鉱山の近辺に泉源のあったことが伝えられています。平成に替わった頃、黒松内にも温泉施設を造ろうという機運が上がり、大栄鉱山跡も試掘場所の候補としてあがったのですが、温泉施設は市街地から近い方がよいとの理由で選ばれず、大栄鉱山跡は幻の温泉地となったのです。雪の積もったこの時期、かんじきを履いて幻の大栄鉱山温泉を探しに行くのも面白そうです。

次のお宝は石油です。昭和１９年の大戦中、中の川地区の添別川上流で、国から依頼された民間の会社が石油の試掘を行っています。しかし、成果は不明で「試掘を行った」としか記録にありません。有望というだけで、北海道の片田舎に石油を探しに来たということは、当時の日本は本当に石油資源が乏しかったようです。又、オイルショック後の昭和５８年、石油公団が賀老橋手前の朱太川左岸で石油の試掘を行っています。結果は芳しくなく、お宝のかけらすら出ませんでした。

最後のお宝は、今年の漢字にも選ばれた金です。黒松内は古くから金産出のメッカで、作開の大金鉱山、黒松内川上流の大栄鉱山、東栄地区の近くの静狩鉱山などと、道内屈指の金鉱山がありました。又、町史に『過去に、白炭川の砂金採取許可の願書を役所に提出した人がいた。結果不明』とあって、白炭川で砂金採りに挑戦した人がいたようです。確かに白炭川の源流は、観音岳と大金鉱山のあった天狗岳と連なる無名山の２つの沢となることから、砂金の産出する可能性はありそうです。この砂金の話を、魚釣りや熊・鹿撃ちを主な趣味とし、いろんな事に興味を持つ友人に話したところ、来春の雪解けすぐに白炭川へ砂金採りに行くと、本を取り寄せたりしておおいに張り切っています。なぜか、愛犬も一緒に連れて行くようです。

※参考文献　「郷土くろまつない」（黒松内町教育委員会・黒松内郷土史編集委員会／昭和３５年７月３１日発行）

じり通信　～はじめて南後志に来た頃～

文・山本 竜也

黒松内という地名を知ったのはいつだったか。思いだせない。はじめて来たのもいつだったのか判然としないが、おそらく 2001 年（平成 13 年）に島牧を訪れた際に通ったのが最初だったのではないかと思う。当時、北大の大学院生だった私はヒグマ研究グループ（クマ研）というサークルに籍を置き、休日には、調査という名の山歩きをしていたが、メンバーのなかに地質学を専攻する学生がいた。彼は、島牧で産出されるマンガン鉱を卒業論文のテーマに選び、札幌から島牧に何度も通っていた。マンガンが産出されるのは、泊川のはるか上流で、林道を車で一時間以上走り、さらに川を一時間以上歩かねばならない。ヒグマに出会う恐れがあるため、一人ではぜったい行かず、かならずサークルのメンバーを相方としていたが、私も一度、お伴をした。

その日は、川を遡上し、滝を越え、ようやく目的とする露頭に近づいたとき、黒い生き物が現れた。距離は 20 メートルほどあったように思う。広い川原で見通しがよかったが、そいつは、一瞬のうちに姿を隠す。バキバキという倒木が折れるような音がした。相方と二人顔を見合わせたものの、とても進む気にはなれず、目的地を目の前にして引き返した。クマ研に所属していても、実際にヒグマに遭遇したのは初めてだった。

それまで、知床には行ったことがあった。が、たしかに自然は豊かなものの、人が多すぎるという印象を抱いていた。しかし、島牧の山中で出会った人は林業作業者くらいで、ここは知床以上の秘境だと感じた。

2006 年（平成 18 年）４月に、私は寿都に転勤となった。黒松内も寿都も、私にとっては、島牧の隣町という印象にすぎなかったが、いざ来てみると、三町村とも、それぞれに魅力を備えていた。そして、この地方の歴史を調べ、文章を書くようになった。といっても、必然ではなく、さまざまな偶然が積み重なり、この道を歩んでいる。過ぎた年月を振り返ると、感慨深い。

筆者のプロフィール・・・山本竜也(やまもとたつや) 1976 年 大阪府生まれ、北海道大学大学院修士課程修了(雪氷学)。2003 年に気象庁入庁後、2006 年～2008 年まで寿都測候所に勤務。現在は、札幌市に在住。著書に「寿都五十話」「南後志に生きる」など。

Beech Boys ～ブナ里少年期紹介～ ※ブナは英語で Beech(ビーチ)

新川　幸夫　(にいかわ　ゆきお) さん　1938 年 1 月 30 日生まれ　78 歳　黒松内 10 区在住

2015 年全国フットパスの集いで訪れた鳥取砂丘にて

Q.子供のころはどこに住んでいましたか？

A.私は小樽市の長橋で生まれ育ちました。小学校 2 年生でちょうど終戦を迎えたのですが、当時のことを断片的に思い出すと、学籍簿（通信簿）は優・良・可での評価でした。学校には奉安殿があり、天皇の写真の前で敬礼をしていました。戦中は、B 29 が小樽上空を飛んだり、防空頭巾をかぶって防空壕に隠れたりもしました。終戦を迎えた日には、学校のみんなと玉音放送に耳を傾けましたが、私たちには話しの内容がさっぱりわからなかった。ただ、戦争に負けたことはわかりましたけど。

Q.子供の頃は、どんなお子さんだったのでしょうか？また、どんな遊びをしていましたか？

Ａ.行動的なタイプだったと思います。家にいるよりは外にでて遊んでいました。遊びといえば、パッチ、ビー玉、三角ベースの野球なんかしていました。小樽は坂が多いから、冬は坂の上からそり滑りをしたり、登下校の時は、馬そりにつかまり、片足だけ竹スキーを履いて学校に通ったりしました。御者のオジさんに見つかったら怒られるので、こっそり馬そりにつかまってね(笑)。

Q.子供の頃、どんな職業に憧れていましたか？

A.正義感の強い仕事。弁護士や検事とか警察官などの職業に憧れていました。父も警官をしていたことがあったようで、少なからず影響を受けたかもしれません。

Q. 生まれ育った小樽で幼小の頃を思い出す風景はありますか？

A. 近所の店屋が立ち並ぶ風景かな。小樽には丸井や大国屋など百貨店があったけど、近所には魚屋、八百屋、肉屋、駄菓子屋なんかありました。ほとんどの家庭に冷蔵庫がない時代だから、どこの家庭でも毎日買い物にでかけ、食材を仕入れて、その日のうちに新鮮なものを料理して食べるということが普通だったし、歩いてどこにでも出かけましたね。今思うと、貧しいながらも幸せな暮らしをしていたと思います。

Q.黒松内の子供たちに、ひとことメッセージをお願いします。

A.故郷のことをよく知ってほしいと思います。故郷のことがわかると郷土愛も芽生えるでしょう。黒松内の自然の豊かさを知ってほしいし、その良さを伝えられるようになってほしい。そして、いろいろなものを見ることで自分の視野を広げてほしいと思います。

インタビューを終えて。。。

1994 年（平成 6 年）に黒松内へと移住した新川さん。当時の黒松内の印象を聞くと「花が少ない町という印象をもった」という答えが返ってきた。私にはこの町が花の少ない町、花を飾らない町という印象がなかっただけに、おもしろい見解である。どうしてなのか尋ねてみると「ヨーロッパでは各家庭でガーデニングをしたり、花のハンギングバスケットや寄せ植えを飾ったりという習慣があります。当時、ヨーロッパを旅行した際に、個人のお宅に花のある光景をよく観ました。それでなおのこと、この町にも花を！という思いがあった。最近は、黒松内でも花を飾る習慣が定着し、すごく良くなってきたと思います。」なるほど。

ヨーロッパの田舎をモデルにしたブナ北限の里づくり構想の実現化がスタートした時期と同じ頃、新川さんはこの町に移住した。20 年以上たった今、町で取り組んでいる環境整備や環境美化などが町民にも浸透し、花植えをするお宅も増えている。新川さん自身、ブナ林再生プロジェクト会長であり、フットパスボランティア、黒松内町環境審議会委員として、この町の環境保全・活用・美化に尽力している。これからも、持って生まれた行動力で官と民の橋渡しをしていただきたい。

DJ マミの音楽質　ブナとドラム

先日、新しいドラムセットを購入しました。ドイツのソナーというメーカーのドラムです。このドラムに使われている木材は、ビーチ材です。ビーチとは、そう、日本ではブナと呼ばれている樹木です。「ソナーといえばビーチ」と言われるほどビーチ材のドラムは、ソナー社の代名詞となっています。しかし、ビーチ材を使ったシリーズが一旦製造終了となっていました。ところが、今回たまたまネット販売で新品のドラムセットがアウトレット価格で出ていたので、「黒松内でドラム叩くならブナのドラムが一番！」という強引な理由をつけて買ってしまいました。

さて、話は前後しますが、札幌のドラム教室に通い始めて 2 年半が過ぎました。40 歳後半から習い始めてどうなのと思われるでしょうが、思った以上に上達している感じがします。レッスン内容は半分以上基礎練習で、スティックの振り方を徹底的に教え込まれます。例えば、右左交互に太鼓を　タ・タ・タ・タ　と叩く場合、左右の腕の筋力などの違いにより　タ・タ・タ・タ・と鳴らずに　タ・ト・タ・ト　と鳴ってしまいます。この動作を、目を閉じて、どちらの手で叩いているかわからなくなるぐらいまで練習します。こういった単調な基礎練習メニューが沢山あるのですが、これをやるかやらないかでドラムの鳴り方が違ってきます。基礎がない人の楽器はガチャガチャうるさいだけですが、徹底的に基礎をやることによって大きな音でも、うるさくない綺麗な音が出せるようになります。恐らく、これは他の楽器でも同じではないのでしょうか。

ドラムを叩くならこの曲、TOTO の「ロザーナ」、とにかくジェフ・ポーカロのドラムです。ハーフタイム・シャッフルというリズムパターンで、とてつもなくカッコいいドラムです。技術的にはとてもハイレベルな曲ですが、私の最初の目標は、この曲が叩けるようになることです。（菅原 正史）

★今年 1 年、大変お世話になりました！来年は、誤字脱字のチェックを怠らないように年間 4 回のレター発行を目指しますので、ご愛読のほど宜しくお願い申し上げます。★

観光協会ＨＰにてバックナンバーがご覧になれます。www.bunasatotourism.com　印刷版ご希望の方は黒松内町観光協会(本間)までご連絡願います。

＝＝＝＝＝＝＝＝ 発行人：ブナ北限の里ツーリズム 発行日：平成 28 年 12 月 30 日 次号発行予定は 2017 年 3 月末 黒松内町観光協会ブナ北限の里ツーリズム TEL&FAX:0136-72-3597 ＝＝＝＝＝＝＝＝